



シリーズ「アジアほっつき歩く記」第41回

日本 タイ人と高野山に行ってみた

すが つとむ
須賀 努

コラムニスト・アジアンウオッチャー

日本が訪日観光客誘致を始めてからどれくらい経つのだろうか。ここ数年、円安のメリットがあり、急激に増加した外国人観光客。マスメディアなどでは中国人の爆買いなどの話題が目立つが、実は他のアジア諸国からの観光客も年々着実に増加している。中でもタイ人の増加は顕著であり、昨年訪日数は65万人を越え、今年は80万人にも達すると言われている。あるタイ人グループに付いて、日本仏教、真言宗の総本山、開創1200年に沸いた高野山に上ってみた。

タイ人の好むもの

関空から入国した一行は、姫路城見学、大阪の黒門市場の散策から観光をスタートした。付き添った日本人は『その間、目に着く食べ物は直ぐに手に取って食べていた』と驚きのメッセージをFB (Facebook) に都度アップしていた。アイスクリーム、たこ焼きなど、簡単に食べられるものは何でも食べ、そして『オイシイ』を連発。これは台湾人や香港人とほぼ同じ行動であり、東南アジアの食文化として、一般的な行動だといえる。

今回のタイ人一行は全て女性、しかも中流以上の経済力があり、購買力は中国人とそん色ない、想像以上に豊かな人々。黒門市場で買ったとあって、嬉しそうに見せてくれたのは『桃』だったが、小さい桃が2個で1000円の表示を見て、日本人はビックリ。タイ人は『日本の桃をバンコックで買ったら高い。これは本当に安い』と説明してくれた。日本のフルーツにはすごい力があることが感じられる。

飲食関連のビジネスを考えるなら、まずは『歩きながら食べられるものを提供する』ことが重要であるが、同時に『食べ終わったゴミをどこに捨てるのか』もハッキリしないと、観光客、特に外国人の旅を快適にすることはできないと思われる。実際、高野山でもタイ人たちがゴミの入った袋をずっと持ち歩き、写真を撮るにも苦勞していた。日本では『ごみの持ち帰り』は常識かもしれないが、外国人観光客のゴミの件は検討しないとトラブルになる気がした。

尚、一行は京都へ行き、茶道や座禅も体験したいといていたが、結局一番人気だったのは、『着物を着て街を歩く』という行為だった。着物を着せてもらい写真に納まる、というのは以前よりあったが、最近は浴衣などを着て、そのまま街に繰り出す、というもの。この状況も何回もFBにアップされており、その宣伝効果は計り知れない。因みにこの光景は東京の浅草などでもよく見られるので、『浴衣を着て外出』ビジネスは波及効果が大きそうだ。

テンプルツーリズム

日本でも最近ではエコツーリズムや医療ツーリズムという言葉が普通に使われるようになってきている。タイでは医療ツーリズムが日本より遥かに進化した形で進められ、世界中の患者を受け入れる体制ができています。今回、高野山に行くと、タイの有名大学の研究者が、勉強のために滞在していた。彼女は観光学が専門だが、目的はズバリ『テンプルツーリズム』だった。



【須賀努氏のプロフィール】

東京外語大中国語科卒。
金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。
現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。

撮影：佐渡多真子



『タイ人には敬虔な仏教徒も多く、宗教に関する関心が高い』とのことで、折角日本に行くのだから、単に雪が見たい、日本製品を買いたいという以外に『日本の仏教を勉強したい、体感したい』というニーズはかなりあるという。それは日本人が考える『お寺巡り』や『仏教美術の見学ツアー』ではなく、根本的に日本の仏教を理解したい、タイの仏教とどう違うのか知りたいというニーズであり、日本にはこれまでなかったことかもしれない。

また、日本にはテンプルツーリズムに相応しい資源が豊富にある、との説明もあった。タイには宗派は2つしかないが、日本には多くの宗派があり、それぞれに特徴もある。全国に多くの寺院があり、四国のお遍路さんのように、ツーリズムに適した土壌もある。そして日本に伝わった大乘仏教には、タイやミャンマーの上座部仏教とははっきり違う考え方、所作があるので、興味深いというのだ。実はこのニーズは中国人や台湾人にも見られる。

筆者はアジアを歩いていて『仏教徒か?』と聞かれることが多く、初めのうちは『仏教徒』と答えていたが、タイ人から『日本の仏教について教えてほしい。なぜ日本の僧侶には奥さんがいるのだ?何故彼らは酒を飲むのか?』と聞かれて、全く答えられずに、以後は『無宗教』で通している。因みにアジアには多様な宗教があり、食事の用意な



写真1 ライトアップされた高野山

どの必要性から宗教を確認することは日常よく見られる光景。恐らく宗教を全く聞かれな



写真2 僧侶より説明を聞くタイ人一行
いのは日本と中国ぐらいではないだろうか。

高野山では基本的に宿坊に泊まる。タイ人に感想を聞くと『タイでは考えられないことばかりだった』とその驚きを語ってくれた。例えば『宿坊では、お坊さんが荷物を持って部屋に案内してくれ、食事の用意もしてくれた。タイでは信者がお坊さんに奉仕するのであって、僧侶が信者に奉仕することなどあり得ないし、あってはならない』と。今回やって来たメンバーは『これは日本方式だ』と自分を納得させていたようだが、来世信仰の強い上座部仏教の世界では得心がいかないのではないだろうか。

日本の仏教とタイの仏教の違いについて、きちんと語れる（出来ればタイ語で）僧侶の必要性が強く感じられた。欧米人の場合、お坊さんが給仕してくれることをものすごく素晴らしいパフォーマンスだと言った友人もいたが、アジア人、仏教徒の中には違和感もあるだろうから、十分な説明が不可欠であると考え。日本をより深く理解してもらうことにより、何度でも来てくれるリピーターが増えるのである。一過性の爆買いなどを追うのではなく、長期的視点で、確実に日本のファンを増やすのが良いのではないかと思う。